

IoT、ビッグデータ、人口知能活用、物流高度化を推進



遠藤信博会長

日本ロジステイクスシステム協会(JILS)は22日、東京・千代田区の経団連会館で第6回定時総会を

開催し、2015年度の事業報告と収支決算、および16年度の事業計画と予算を承認した。今回は役員改選も行われ、会長に日本電気代表取締役会長の遠藤信博氏が就任した。副会長人事では川合正矩日本通運代表取締役会長と杉山武彦一橋大学名誉教授が留任し、新たに亀井淳イトーヨーカ堂代表取締役社長が就任した。総会に続いて行われた16年度の物流合理化賞の表彰式では、物流合理化賞を受賞したエヌ・ティ・ティ・ロジスコサイビスとキムラユニティーおよび物流合理化努力賞を受賞した6社の代表者に川合副会長が表彰状を授与した。受賞企業と受賞事例は〈表〉の通り。

み、②グローバルロジステイクスの進展に向けた取り組み、③新たな世界的協定とロジステイクス分野の環境問題への取り組み、④ロジステイクス人材の育成に向けた取り組み、⑤ロジステイクスオペレーションにおける、現場改善推進の取り組み——を活動方針とした。ロジステイクスイノベーション推進のために、同協会が取りまとめた「IoT、ビッグデータ、人工知能の進展による2030年の物流ビジョン」に基づき、ロジステイクスイノベーション推進の取り組み——を活動方針とした。

2016年度物流合理化賞・物流合理化努力賞の社名と事例

物流合理化賞(2件)	
エヌ・ティ・ティ・ロジスコサービス	作業ルールの統一化(1個流し・整流化・見える化)による品質と効率の改善
キムラユニティー	「安全・安心な台車への改善」と「安全な人づくり」—愚直で地道な安全環境づくりと新たな魅力ある職場環境づくりに向けて
物流合理化努力賞(6件)	
アドバンス・ロジスティックソリューションズ	ピッキング業務のムダ取り改善と安全確保
オカム物流	ピット回転率向上による荷役効率改善—積込車両を待たせない為の対策—
東芝ロジステイクス	輸出入間接業務の事務効率改善
富士ロジテック	ピッキングカート及び屋内測位データを基にした改善と効果検証
コクヨサプライロジステイクス	サプライチェーン密着による改善運動
STARLECS	物流品質のKPI管理による物流環境改善

16年度は、社会・経済の持続可能な発展と12年度に策定した「ロジステイクスコンセプト2020」で示したビジョンの実現のため事業を展開し、ロジステイクスシステムの普及を進めていく。具体的には、①ロジステイクスイノベーション推進のための取り組み



代表各社受賞と（目5人から左）副会長川  
 進部会、ロジス  
 テイクスKPI  
 推進部会を設置  
 し、将来像の提  
 示、課題の整  
 理、実現のため  
 の方策等を検討  
 するとした。ま  
 た、9月には東  
 京でアジア最大  
 規模の展示会  
 「国際物流総合  
 展2016」を

開催する。

会員数の拡充にも取り組み、新規会員獲得目標を75社に設定。エリア別の内訳は、本部40社、関西支社20社、中部支社10社、九州地区5社とした。なお、15年度末現在の法人会員数は859社で、15年度1年間で19社増加した。

物流合理化賞表彰式に続いて開かれた懇親会では、冒頭、株主総会出席のため欠席した遠藤

会長の挨拶がビデオ映像によって上映された。遠藤会長は「熊本地震では地域のサプライチェーンが寸断され、深刻な影響が生じた。ロジステイクスの重要性はますます大きくなっており、ヒトやモノをつなぐバリエーションのイノベーションが求められている」と述べ、「『ロジステイクスコンセプト2020』に基づき、事業を展開していく」と語った。



官審議官 重田物流  
 審議官が挨拶した  
 のち、国土交通  
 省の重田雅史物  
 流審議官が乾杯

の挨拶を行った。重田物流審議官は「わが国はオールジャパンで生産性革命を推進しなくてはならないが、そのためには、荷主と物流事業者が連携してイノベーションを起こしていくことが大切だ」と述べ、乾杯の発声を行った。

来賓として経